活用事例　●武蔵野星城高等学校

進路指導における厚生労働省編一般職業適性検査の活用

武蔵野星城高等学校
進路指導主事　**中村友子**

武蔵野星城高等学校は、学校法人小池学園が設置・運営。建学の精神は、「以愛為人（愛を以て人と為す）」。この建学の精神の下、単位制による通信制課程であることを特長とする独自の教育カリキュラムを編成し、教育実践を通じて、生徒たちが有意義な充実した学校生活を過ごせるように努めている。
（所在地：埼玉県越谷市新越谷２−18−6）

本校は、埼玉県越谷市に所在し、今年で創立23年目を迎える私立の通信制高等学校である。全日制と同様に月曜日から金曜日の5日間登校する登校コースと、オンラインレポートや放送視聴を活用して、月2回程度の登校で卒業を目指す一般コースの2つのコースを併設し、在籍者数は合わせて４３０名（令和6年3月現在）である。

在籍している生徒には、中学校時代に不登校経験があったり、勉強に苦手意識を持っている者も少なくない。そこで近年は学校を挙げて学力向上に努め、実用英語技能検定の上位級（準1級他）に合格する生徒や現役で国公立大学に合格する生徒も現れ、着実に進路実績を向上させている。また、就職希望者への指導にも同様に重点が置かれ、令和5年度は就職希望者の進路決定率は１００％となっている。

本校の進路指導は、本校独自の「進路の手引き」に基づき、学年ごとの具体的な進路指導目標を設定し、1年次から計画的かつ段階的な指導を実践している。

主に定期的な進路ＬＨＲや進路行事での職業体験、進路講演会や大学・専門学校のガイダンスなどを実施している。スケジュール手帳を全生徒に配付し、これを活用して自己管理能力の育成を行っている。また、新聞を活用し、社会の情勢や変化を読み解く能力を育成するＮＩＥ教育の導入など、様々な取り組みを3年間継続して実践することで体系的な進路指導を目指している。

そして、「厚生労働省編一般職業適性検査　ＧＡＴＢ」を生徒の希望進路にかかわらず、2年次の4月、全生徒を対象に行っている。この時期は生徒が自身の進路目標に対して、糸口が掴めない状態でいることが多く、できる限り早い時期に自分自身を理解し、適性を知ることで将来のための準備を始める動機付けになってほしいという意図で始めた。また、進学を希望している生徒も、数年後には就職活動を控えており、希望先と自身の適性について心配する生徒もおり、その不安を解消することも目的としている。

ＧＡＴＢの結果は、主に三者面談を通して、保護者とも共有し、保護者のご理解とご協力を得ながら、進路希望が未定の生徒に向けての判断材料として活用したり、希望する進学先が決定している生徒であっても、自身の適性を正しく理解することで将来的なミスマッチを防ぐことができるよう指導に活用している。

生徒と保護者の反応として、客観的な自分の検査結果から、希望する進路実現に向けて自信を持ったり、自身の進路を再考したりと様々である。ただし、共通して言えることは、ＧＡＴＢは生徒、保護者が将来の展望を思い描くきっかけや判断材料となっている。筆記による検査ではあるが、その結果には一定の説得力があり、効果的に活用することができている。

様々な観点に基づき、熟考を重ねた上で実現を果たした進路先であっても、早期退職や途中退学となるケースは存在している。今後は、様々な社会の変化とともに、職業観も大きく変化することが予想される。しかし、できる限りその生徒の適性に合致した進路へ導いていくことが、本校の今後の課題であると考えている。

GATBの実施風景